

「運動会」を通して育てる力

いよいよ運動会練習が始まりました。まだ厳しい残暑の中、子どもと一緒に汗だくで指導している先生方の姿には、本当に頭が下がります。水分と休養を取りながら、体調に十分留意してご指導ください。今回の校長室通信では、運動会について思うところを書いてみます。

先ず、学習指導要領では、運動会は、特別活動の学校行事「健康安全・体育的行事」に位置づけられています。その内容は「心身の健全な発達や健康の保持増進などについての関心を高め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行うこと。」とあります。

これをふまえて、「運動会」という行事を考えると、以下のような特性が上げられると思います。

- (1) 集団で勝敗を競う体育的行事である。
- (2) 集団行動を多く伴う体育的行事である。
- (3) 高学年の児童が会の運営に関わる行事である。
- (4) 地域や家庭に広く公開する行事である。

したがって、この4つの特性を生かした意図的な教育活動を展開したいものです。以下にそのポイントと育てる力を上げてみます。

1 勝つために全力を尽くす → 全力でがんばる力、団結力・連帯感、体力の向上、フェアプレーの精神、勝敗への正しい態度等

「集団で勝敗を競う体育的行事」であるのですから、ぜひ勝敗にこだわってほしいと思います。

ロンドンオリンピックで、日本中が感動したのは、サッカーにしろ、バレーボールにしろ、勝利を目指してあきらめず全力で戦う選手達の姿に対してでしょう。勝負よりも参加することに意義があるという姿勢で選手がのぞんでいたらあれほどの感動は無いだろうと思います。

運動会でも、是非、他色には絶対に勝つ、〇組には絶対に負けない、という強い気持ちがほしいものです。その気持ちがあるからこそ、全力で走り、力を出し切ることができるし、運動会前の練習にも真剣に取り組むことができるのです。

勝っても負けてもいいということであれば、暑い最中の運動会前の練習はただ疲れるだけです。できるだけ手抜きをしようということになります。

徒走でたとえ1位になれなくても、順位を一つでも上げれば、1点分自分の組に点数が加算され、組の勝利に貢献できる。そのことにこだわらせたいし、そのがんばりを称賛したいものです。

そして、子どもを本気にさせる近道は、先生が本気になることです。先生自らが絶対に我クラスの子どもたちを勝たせるんだという気持ちをもって指導に当たって欲しいと思います。必ず子どもたちにも、先生の思いが乗り移るはずで。

そして、ここからがとても大事なのですが、「勝敗にこだわる以上、絶

指導があります。この指導を落とすと、デメリットが大きくなります。学習指導要領・学校行事の解説にも留意点として「各種の競技会などの実施に当たっては、いたずらに勝負にこだわることなく、…」と書かれています。これは、勝敗にだけこだわると、不正行為や優越感・劣等感を助長することになるからです。したがって、以下の2つの指導は忘れず必ず行ってください。

1つめは、**フェアプレーで戦う**ということです。反則やずるいことをして勝っても、ほんとの勝ちではないということ。正々堂々と戦って勝つのがほんとの勝ちである。ということを必ず指導しなければいけません。

2つめは、**勝敗の結果に対する正しい態度を教える**ということです。

勝敗の結果に対する正しい態度を教えておかないと、往々にして「ざまあ見ろ」などと負けた方をさげすんだり、逆に、勝った方に対して「勝ったからって調子に乗ってるんじゃないか」などと悪態を吐く子がでてきます。

ラグビーでは、試合が終わることを「ノーサイド」と言います。敵味方というサイドで戦っても試合が終わればノーサイドになって、お互いの健闘を讃え合う。サッカーなどでも、試合が終わるとお互いのユニホームを交換し合い、相手に敬意を表します。スポーツの素晴らしい一面です。

そんなスポーツの例なども話し、赤組も白組も青組も、それぞれ勝利をめざして一生懸命にがんばったことは同じ。「勝って驕らず、負けて恥じず」という言葉があるように、お互いの健闘をお互いに讃え合う気持ちが大切であることを教えてください。

2 練習を通して集団行動を徹底させる → 集団行動力、規律ある態度、協力、集中力等

運動会は、練習から本番まで集団行動のオンパレードです。集団行動を身に付けるまたとない機会ととらえ指導を徹底したいものです。

(1) 「行進」について

まず、学級で、「歩き」と「行進」の違いを考えさせ、理解させておくことが大切です。

「歩き」は一人で歩くこと。「行進」は一つの演技であり、前後左右の人を意識しながら、足並みをそろえて歩くことです。子どもがそのことを理解していないと、一人で自分勝手に歩き、行進になりません。

次に、行進は、低・中・高学年で発達段階に応じた「めあて」をもたせましょう。

例えば、低学年は、「元気に手をふって、まっすぐ行進する」。

中学年は、「手を大きくふり、横列もそろえて行進する」。

高学年は、「胸を張り堂々と行進する」などです。学年の実態をみて達成できそうな「めあて」を決めておくといいでしょう。

(2) 練習中に身に付けさせたい集団行動について

練習が効率よく進められるための集団行動を徹底させましょう。

以下の3つの集団行動を「練習時の約束」として子どもたちに話し、意識させるとよいでしょう。なぜ3つにしぼるかというと、3つなら低学年でも頭に入るからです。頭に入っていないことを人間は守ることはできません。徹底させると、断然、練習は効率的に進みます。暑いさなかでの練習、短時間で効率的に練習を進めることは、熱中症の予防にもなります。

- ①集合時間を守る
- ②移動はかけ足ですばやく動く
- ③先生が話す時は、口を結び静かに聴く

Created with



nitro PDF professional

download the free trial online at nitropdf.com/professional

download the free trial online at nitropdf.com/professional

練習終了時の先生の話の中で、毎時間、3つの約束について評価してあげるとさらに徹底します。

「今日の『集合時間』は100点満点でした。すぐに練習が始められました。すばらしい！」

「『すばやく動く』は60点。時間がかかりすぎです。暑いからこそ、すばやく動いて時間を短縮しましょう。」

「『静かに聴く』は90点。ほとんどの人がよく聴いて動けていましたが、何人か残念な人がいました。次回がんばってください。」など。

毎回点数が上がっていけば、子どもたちの目標や励みになり、見違えるほど動きがよくなっていきます。

3 高学年が運動会を運営していくことに誇りをもたせる → 責任感、協力、自尊感情等

5・6年生の児童は、競技をしながら運動会の運営に関わります。これは、なかなか大変なことです但同时に、高学年の自覚をうながすチャンスでもあります。

運動会には、家族の人ばかりでなく、地域の人やお年寄りも見にやってきます。500人以上の人が来るのではないのでしょうか。

その大勢の人たちの前で、自分たちが係の仕事を負い運動会を運営していくのです。係が動かなければ運動会は成功しません。そのことに責任と誇りをもつようにぜひ高学年の先生方は子どもたちに話してほしいと思います。君たちの仕事ぶりが、「運動会成功のカギ」であると。

運動会終了後も、勝敗を越えて、係の仕事の責任を果たしたことについて大いに称賛してください。この運動会を通して高学年の自覚がさらに高まれば、素晴らしいと思います。

4 青木北小の「よさ」を地域に発信する → 表現力、発信力等

運動会は、最大の「学校公開」行事です。日頃、学校便りで学校の様子を伝えていても、実際に子どもの姿を見れば、一目瞭然。百聞は一見に如かず。子どもの姿を通して、学校の教育力が分かります。

日頃から、授業に一生懸命取り組んでいる個々の姿、集団での質の高さ、特に高学年のリーダーとしてのがんばりなどは、他校に誇れる青木北小学校の「よさ」です。それを、競技、演技、運営の姿を通して地域に発信しましょう。

そして、その「よさ」は、教師の日々の指導と努力によって、子どもたちの身についたものです。この運動会を機会に、大いに「青北っ子」のよさと共に本校教師集団の力も発信しようではありませんか。

以上、今回の運動会を通して、子どもたちがさらに一回り成長することを大いに期待しています。